

[参考資料]

※本資料は2010年2月18日オーストラリアのシドニーで発表された Qantas Airways Limited のプレスリリースからジェットスター航空に関する内容を抜粋し、Qantas Airways Limited の了解のもと、ジェットスター航空がお送りするものです。

報道関係各位

2010年2月19日  
ジェットスター航空

**カンタス航空**  
**2009／2010 年度上半期の業績を発表**

【シドニー発 2月18日】カンタス航空(本社:シドニー、社長:アラン・ジョイス)は本日、2009／2010年度上半期(2009年7月1日～12月31日)の法令に基づく税引き前純利益(PBT)が9,000万豪ドルであったと発表しました。また、法令に基づく税引き前純利益は、2009年12月に示した5,000万豪ドルから1.5億豪ドルというガイドラインに収まりました。一方で、経営陣がグループの業績評価のために用いている主要基準のひとつである基礎PBTは、2億6,700万豪ドルでした。主な業績数値、および主なポイントを以下の通りお知らせいたします。

**ハイライト**

- 法令に基づく税引き前純利益 9,000万豪ドル
- 基礎税引き前利益(PBT)<sup>※1</sup> 2億6,700万豪ドル
- 総売り上げ 69億豪ドル
- 営業活動によるキャッシュフロー 4億8,300万豪ドル
- キャッシュ・バランス 35億豪ドル
- 法令に基づく1株当たり利益 2.6セント
- 中間配当なし

<sup>※1</sup>基礎PBTは、他の会計期間中のリスクをヘッジするためのデリバティブ損益および経常外項目を除外した税引き前利益と定義される会計基準であり、法令に基づく基準ではありません。

カンタス航空のアラン・ジョイス(Alan Joyce)最高経営責任者(CEO)は、世界の航空産業が引き続き赤字を計上している中で、カンタス・グループは黒字を維持できたと次のように述べました。

「IATAによれば、2010年に世界の航空産業はこれまでで最大である、56米億ドルの赤字を記録しました。このような前例のない厳しい経営環境の中で、強い競争力と事業の多角化によって当社は収益を確保できたと考えます。このような環境、および機体更新に伴う大規模な資本支出プログラムを考慮して、取締役会は、中間配当をゼロとするとともに、今後の配当についても継続的な収益および資本の必要性に基づいて評価するのが賢明だと判断しました。

世界的な金融危機、およびその需要、収益、イールドに対する影響に対処するために、航空産業は断固たる行動を求められました。しかし、カンタス航空は昨年、状況を迅速かつ慎重に検討し、特に輸送力の管理およびコスト面で厳しい決断を下したことにより、好ましい結果をもたらしました。さらに、プレミアム・ブランドのカンタス、ローコストブランドのジェットスターの2ブランドから成る、フルサービスの拡大を重視した2大ブランド戦略は、顧客だけでなく、株主にも利益をもたらしました。

そして、特にカンタスは、2009年4月以降に実施した輸送力縮小と事業再編によって上半期にコストを大幅に削減することができました。一方、ジェットスターはグループに真の多様性を、またグループ全体の幅広い資産ポートフォリオは、独自の競争力と収益拡大機会をもたらしました。

カンタス・フリークエント・フライヤー・プログラムも優れた成績を収めており、ウールワース・グループとの提携や昨年中に実施した他のプログラム強化策も、このプログラムに好ましい影響を与え続けています。カンタスフレートやジェットセット・トラベルワールド・グループも、回復の兆しが見え始めている景気や需要の波に、いち早く乗じる準備ができています。」

2009年8月に発表した3年間のコスト削減プログラム Q Future が、カンタスの今期の財務、および営業業績の大きな下支えになっているとジョイス CEO は指摘しました。

「Q Future は、すでにカンタスだけでなく幅広くグループ全体に多額の利益をもたらしています。当社は現時点まで、すでに2億豪ドル以上の持続的削減および効率改善を達成しており、2009/2010年度には目標の5億豪ドルも達成できる見通しです。」

さらに、前年同期と比較した2009/10年度上半期の業績の特徴は以下の通りです。

- 過去12ヶ月間に内需、外需、燃料サーチャージが低下し、そのためにイールドが14.9パーセント低下。
- 輸送力の削減がシートファクター(ロード)の2.7ポイント上昇によって一部相殺。
- 上半期に平均燃料価格が前年同期比で38%低下し、燃料コストが純額で4億8,600万豪ドル削減。
- 昨年の再編に伴うアクティビティコストの削減および効率改善によって(燃料費を除く)営業費が11.0%削減。

上半期に計上された経常外費用には、昨年発表した輸送力削減に伴う売却予定広胴機の回収可能価額が変更したことによる、4,800万豪ドルの航空機評価損の計上があります。

#### ■ジェットスター航空に関して

カンタス航空のジョイス CEO は、ジェットスター航空は今半期に記録的な業績を達成し、利益率を高めるとともに、路線網全体において輸送力を32.9%拡大したと述べました。

「ジェットスター航空は、アジア全域で大きな成功を収めたブランド、また革新的な低運賃のリーダーとして発展し続けてきました。オーストラリアをリードするローコストキャリアとしての地位を確固たるものとし、さらに今半期に就航したシドニー・パース、メルボルン・シドニー間の二つの国内路線ならびに今後就航予定のメルボルン・ブリスベン便の販売により成長を続けています。ジェットスター航空はまた、カンタスグループのニュージーランド国内線を引き継ぎ、この市場でのグループの利益率を高めました。国際線については、B787型機に先立ち納入されたA330型機により輸送力が増加し、さらなる成長が見込まれます。最近発表したAirAsiaとの世界初のローコストキャリア間の提携は、低コスト達成と効率改善の新しいモデルとなっています。ジェットスター航空は、アジアへの拡大にも引き続き取り組んでいきます。」

#### ■詳細

ジェットスター航空の本源的EBIT(利払前税引前利益)は1億2,100万豪ドルに達し、前年同期の4,300万豪ドルから181%、7,800万豪ドル増加しました。この過去最高の業績は、2004年5月の会社設立以来、常に利益を計上してきた実績をさらに継続したものです。

この業績はまた、コスト管理に対する強力な取り組みも反映しています。有効座席キロメートル(ASK)あたり総原価は16.5%、管理対象単位原価(燃料費と為替レートを除く)は6.1%減少しました。

新型インフルエンザ(H1N1)の影響や東南アジアおよびニュージーランドでの競争激化など、厳しい事業環境において、ジェットスター航空のイールドは 10.9%減少したものの、総売上は輸送力が 33%増加したことにより、18.1%増の 11 億 3,100 万豪ドルとなりました。

今半期の旅客数は、2009 年上半期の 510 万人から 43%増の 730 万人に達しました。

ジェットスター航空は 3 機の新しい航空機を納入し、2009 年 12 月 31 日現在の機材数は 59 機に達しています。

※本資料はQantas Airways Limitedがオーストラリアで発表した内容をもとにジェットスター航空が作成した抄訳版です。当資料の正式言語は英語であり、その内容およびその解釈については英語が優先します。原文は、Qantas Airways Limitedホームページ(<http://www.qantas.com.au>)内のAbout Qantas / Media room / Media Releases にて掲載されておりますので、ご参照ください。

ジェットスター航空に関するメディアお問い合わせ先  
オグルヴィ PR ジェットスター航空 広報担当: 田中/藤原  
TEL: 03-5793-2334/2341 FAX: 03-5793-2381  
e-mail: [miho.tanaka@ogilvy.com](mailto:miho.tanaka@ogilvy.com), [akiko.fujiwara@ogilvy.com](mailto:akiko.fujiwara@ogilvy.com)